

図.1 医療スタッフによる痛みスケール (VAS)

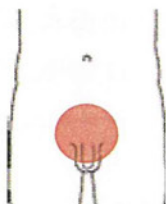
下の①～⑥は治療回数を示し、赤い線は治療介入のタイミング。仕事に支障のないよう聴取できる範囲で行った。そのため、日によって回数が異なる。突発的な痛みがあるが、痛みは治療介入前と比べ、低くなっているといえる結果が示された。

【症例】73歳、男性

【傷病名】膀胱癌（StageIV 摘出手術後）

【治療目的】「会陰部痛」

入院期間中、会陰部に痛みを訴える。オキシコドン塩酸塩（徐放性の錠剤）の服薬効果が切れると痛みは再発するとのことだった。



しかし、医師からは画像所見含め検査では癌が残存している可能性は極めて低く、服薬量が軽減しないため医師から依頼を受けた。

【既往歴】膀胱尿道全摘、回腸導管造設術

【現病歴】

X-1年8月中旬、上記手術後の経過観察中であつた。しかし、下旬になりウロバックに尿を認めず、尿閉および腎盂腎炎を疑い入院となった。入院中会陰部の痛みを訴えるようになる。癌残存は認めないため、癌性疼痛ではないと考えるも鎮痛薬の効果が不十分であつたため、鍼灸併用治療の依頼となった。

【投薬】

スキュー：オキシコドン塩酸塩 5mg×2包

【所見】

会陰部の奥の方がズキズキしたような重い痛み、または引き裂かれるような痛みがある。以前は夜間に痛みが集中していたが、最近では昼間にも痛みが起こっている。足背

浮腫、母趾・小趾爪白癬。

睡眠：痛みで2時間おきに起きる時がある。

切診：太衝軟弱、太白軟弱、公孫軟弱、三陰交軟弱（右>左）、陥谷～地五会膨隆、丘墟膨隆。

舌診：淡白、胖大、嫩舌診、厚膩苔。

【東洋医学的弁証】

気滞血瘀、肝胃不和

【方法】

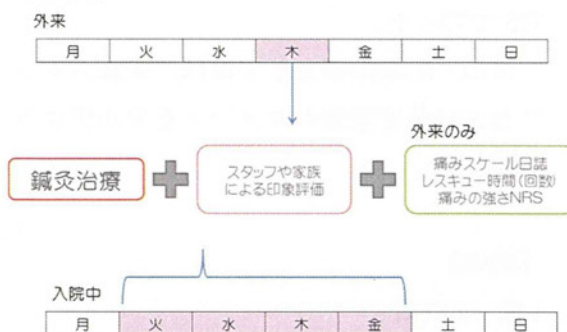


図1. 鍼灸治療の流れ

入院期間中は週4回（火曜～金曜）の毎日患者負担のかからないよう、10分程度の治療を行った（1～5診目）。退院後、外来にて週1回（6～11診目）、その後医師との相談により2週に1回（12診目～）のペースで外来治療を行った。

【評価】

医師、医療スタッフ、家族の印象評価はカルテより抜粋。患者本人からはコメントおよびレスキューの使用頻度を使用した。痛みは入院期間中、VASで行い、退院後は患者本人にレスキュー服薬時の時間と共に記入してもらうためNRSにて行った。

### 【使用鍼具】

毫鍼：セイリン社製、直径 0.12mm×長さ 15mm を 2mm 程度、陰部神経付近を目標に陰部神経には直径 0.25mm×90mm を 85mm 刺鍼で行った。

円皮鍼：セイリン社製、直径 0.2×長さ 0.6mm を使用。鍍鍼は補法を目的に金製、瀉法を目的に銀製を使用した。

e-Q（電子温灸器）：45±2℃、5秒設定にて使用した。

### 【評価】

入院期間 VAS を使用。外来では患者自身に痛みチェック表にて記入してもらうため、NRS で行った。

また、印象評価として医師、医療スタッフおよび患者家族のコメントをカルテより抜粋した。

### 【経過】

#### 1 診-2 日目

##### ● カルテ

5 時、「いたたたた…おちんちんの奥が痛い」（レスキュー服薬）

7 時、「あかんわ、どうも痛い。吐き気止めは飲んだで」

10 時、「痛い」（NRS：10）

11 時半、トラマドールは効果明らかではなく、中止する。

12 時半、「良いとは言えない。寝付きは悪い、痛みのせいもある。2 時間おきの痛みが昨夜から 4 時間おきになった。あんまりようけ飲むのもね。副作用もあるし、増やすのもなあ…」

13 時、「えずくのは一緒やで」食事 30 分前ノバミン服薬するも嘔気変わらず。昼食は全量摂取する。

レスキュー服薬回数全 8 回。

#### 1 診-1 日目

##### ● カルテ

3 時、「10 以上や！！」（レスキュー服薬）

5 時半、「痛みがかなり強くなってからじゃ効きが悪い。今は 7 か 8 くらい」

10 時半、「痛みはゼロやな」

11 時半、「痛くなってきた。7 くらい」レスキュー服薬回数全 6 回。

#### 1 診目

##### ● カルテ

0 時半、「痛いんです」

3 時、「痛い。（薬の効果が）2 時間半か～。（痛みは）10 や」

6 時、「3 時間やなあ。また痛くなってきたわ」

14 時、「今は痛くない。今日はどっさり便がでたし、スッキリしたわ」

15 時半、「今は 7 くらい。10 まで痛くなったら嫌やから飲む」

22 時半、「痛い」（VAS：60mm）

レスキュー服薬回数全 8 回。（治療後 2 回）

##### ● 鍼灸

会陰部の奥の方がズキズキしたような重い痛み、または引き裂かれるような痛みがある。以前は夜間に痛みが集中していたが、最近は昼間にも痛みが起きている。治療時はオキシドン塩酸塩（徐放性の錠剤）10 mg 服薬直後だったため痛みは VAS：0mm。

望診：足背浮腫、母趾・小趾爪白癬。

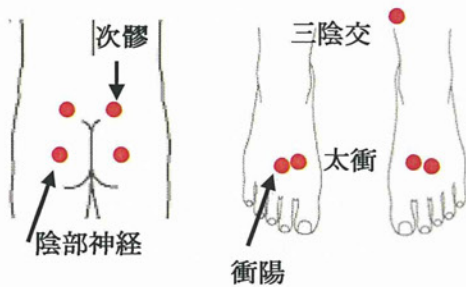
切診：太衝軟弱、太白軟弱、公孫軟弱、

三陰交軟弱（右>左）、陥谷～地五会膨隆、丘墟膨隆。

舌診：淡白、胖大、嫩舌、厚膩苔。

睡眠：痛みで2時間おきに起きる時がある。

治療部位：陰部神経、太衝、次膠、衝陽、左三陰交。治療直後、違和感なく終了。



## 2 診目

- カルテ  
4 時半、「痛い」(VAS : 83mm)  
7 時、「ちょっと楽になっていたけど、まだ痛いな」(VAS : 80mm)  
11 時、「今日はちょっと(痛みの間隔が)あいてるな」(VAS : 0mm)  
12 時半、「鍼灸効いとるな」  
16 時、「痛みない」(VAS : 0)  
20 時、「痛くなってきたわ」(VAS : 59mm)  
22 時半、「あれから全然、痛ないわ」(VAS : 0mm)  
レスキュー服薬回数全 3 回(治療後 1 回)
- 鍼灸  
「朝 7 : 00 に起床してから 7 時間経過するも痛み止めを飲んでいません。痛いよりも刺した部分が痒くなったから、

痒み止め貰いそうになったわ」と笑いながら話された。また、医療スタッフからも、「夕方から鍼灸師さん来てくれるって話したんですけど、午前中からずっと『まだ来んのか』って探し回ってました」と直接告げられた。

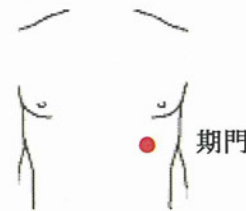
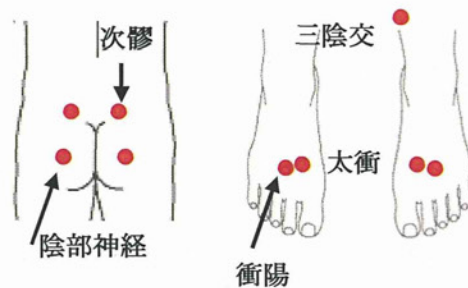
望診：足背軽度浮腫。

切診：胸脇苦満。引き裂かれるような痛みではなくズキズキした痛み(少し重い痛みもある)のみとなる。

脈診：弦、左関上やや滑。

舌診：淡白、厚膩苔、舌下静脈怒張、胖大。

治療部位：前回の治療部位に加え、左期門を追加した。



## 2 診+1 日目

- カルテ  
2 時半「痛み止めください」(80mm)  
6 時、71mm の痛みを訴える

10時、「痛み止めおくれ！」(80mm)  
 18時、「今は痛くない」夕食も主食10割、副食6割食べられる。  
 19時、「痛み止めください」(71mm)  
 19時半、「痛み止め飲んだら、ムカつきが出ました」  
 レスキュー服薬回数全5回

2診+2日目

● カルテ

2時、「痛いんや」(VAS:72mm)  
 7時、「痛み止めください」(79mm)  
 14時、「7時から痛くない」(VAS:0mm)  
 15時半「痛いです」(VAS:78mm)  
 16時、前回の痛みを訴えた20分後には面会人とラウンジで話している。  
 19時、「痛み止めくれ」(VAS:79mm)  
 23時半、VAS:80mmの痛みを訴える

2診+3日目

● カルテ

4時、「早めにのむわ。あーいた」(VAS:70mm)  
 7時、「うえっ、うえっ」空えずき。  
 10時、「痛み止めくれ」  
 13時、「鍼してもらってから痛みも良くなってきてる感じ。前やったら、2時間おきに飲んでたんやけど、飲む感覚が長くなってきてるもん。鍼の効果やな」  
 14時、「ギューーと痛い」(VAS:82mm)  
 19時、「ギューーと痛い」(VAS:80mm)  
 レスキュー4回(治療後1回)。

3診目

● カルテ

0時、「痛みどめください」(VAS:80mm)

6時半、「痛くなってきた」(VAS:80mm)  
 11時、「今はゼロや」(VAS:0mm)  
 14時、「前立腺が痛い。飲めたけど、吐き気する」  
 17時半「今までなら2~3時間だったけど、鍼してもらって、4~5時間に間隔あいた。でも、10時間あく時もあるし、色々や」  
 18時半、「痛み止めくれ」(VAS:80mm)  
 23時、VAS:79mmの痛み  
 レスキュー服薬回数全6回(治療後3回)

● 鍼灸

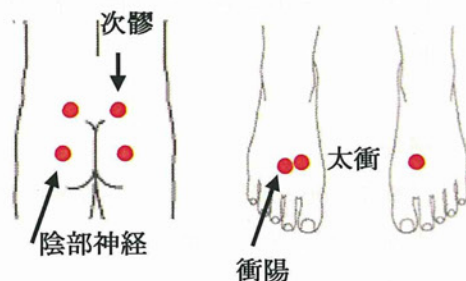
鍼治療介入してからオキシコドン塩酸塩(徐放性の錠剤)使用量軽減が認められ、本人から「退院後も続けたいです」と退院後の継続治療を希望された。また、この回より食事の際に込み上げてくるようなムカつきもあると話されたため、追加治療を行った。

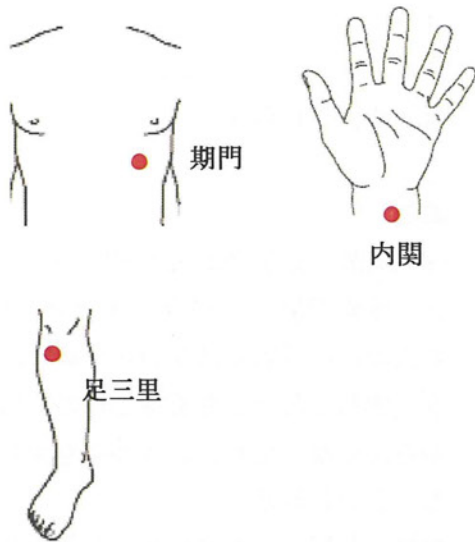
切診：内関緊張、右足三里緊張、太衝表面緊張深部軟弱、太溪軟弱。

脈診：左尺中弦。

舌診：淡白、厚膩苔、足背軽度浮腫。

治療部位：陰部神経、次膠、太衝、右衝陽、左期門、右足三里、左内関、円皮鍼：左内関を使用した。





#### 4 診目

- カルテ

1 時半、「今度ははやいなあ。2 時間やな」(VAS:78mm)

4 時、「痛いわ。寝てられへん」(VAS:78mm)

6 時、「痛いわ」(VAS:78mm)

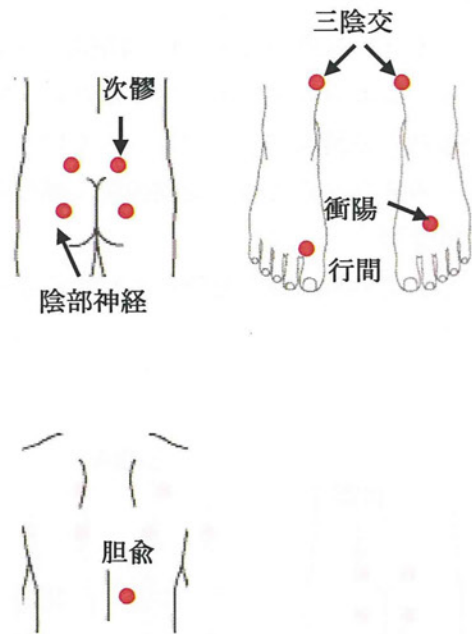
17 時半、「薬飲んだで」

レスキュー服薬回数全 7 回(治療後 3 回)

- 鍼灸

「今日はちょっと痛いのを我慢して待っていました。ムカつきと痛みが同時に来る感じ。あと、夜中痒くなって、鍼をすると循環よくなって痒くなるんですか？首の裏を冷やしてもらったらスーと楽になりました」夜間は時々ズキズキと痛むこともあったとのこと。  
脈診：渋、舌診：淡白、白苔。

治療部位：陰部神経、次髎、右胆兪、三陰交、右行間、左衝陽を使用した。



#### 5 診目

- カルテ

2 時、「さっき痛くて飲んだ」1 時半にレスキュー服薬されている。

4 時半、「飲んだ。(VAS)70 や！」

10 時半、「今はゼロや」

20 時半、「鍼してもらったけど、その時だけやな」

レスキュー 8 回(治療後 2 回)。

- 鍼灸

痛みの性質が重い痛みが消失し、ズキズキした痛みのみとなる。

脈診：弦。

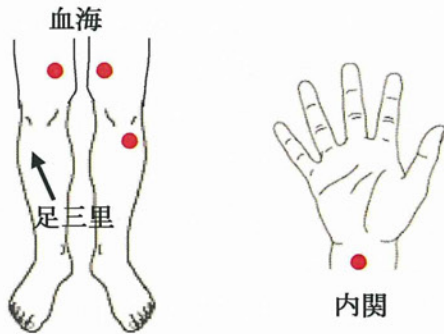
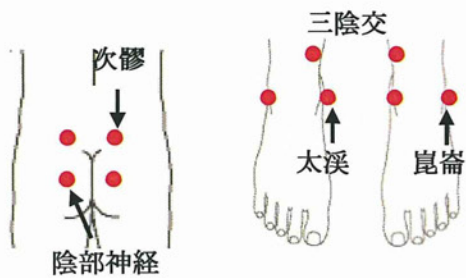
舌診：淡白、黄膩苔、舌下静脈怒張。

血瘀による痛みが強くなっていると考え、活血化瘀を中心とした治療を行った。

治療部位：陰部神経、次髎、血海、三陰交、

太溪、崑崙、円皮鍼：足三里、右内関、三陰交。

患者（家族含む）、医師、看護師、医療スタッフによるカンファレンスを行い、現在の微熱の原因はストーマに入れているカテーテルと考えられるため、退院後週1回の外来受診管理とし、その時に鍼灸を行っていくことになった。



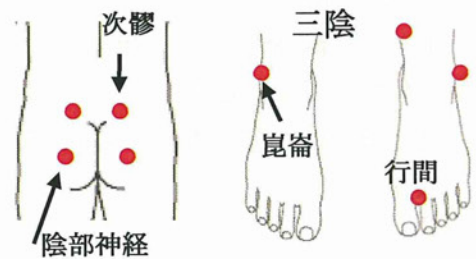
#### 5 診+1 日目

- カルテ  
6時半、「痛いんや」(VAS:80mm)  
9時半、「下腹部の痛みあり」(VAS:80mm)  
昼に退院される。  
昼までのレスキュー服薬回数全4回。  
(0:30、4:20、6:50、9:30)

#### 6 診目

- カルテ  
痛みどめは5~6回/日。  
退院前と変わらない。
- 鍼灸  
外来受診。退院後から1週間のレスキュー服薬回数は5~8回であった。患者本人からは「痛みは変わらず痛い。もう、味もしないから美味しいのかもわからなくなってた。ムカつきも少しある」といわれる。  
脈診：右関上・左尺中弦、左関上やや渋。  
舌診：淡白、白膩苔、舌下静脈怒張少々。

治療部位：陰部神経、次膠、左期門、左足三里、左三陰交、左行間、崑崙を使用した。



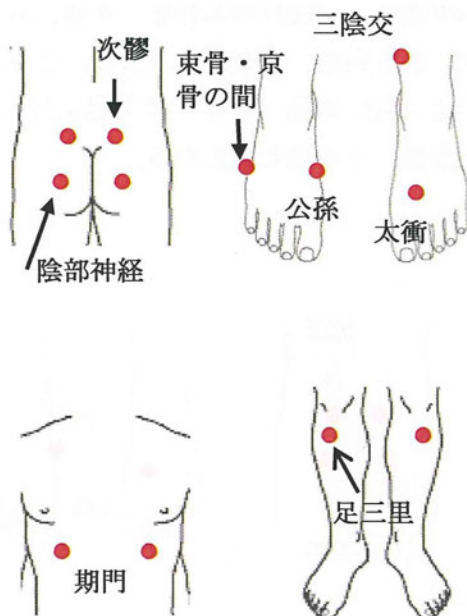
#### 7 診目

- カルテ  
痛みどめ5~6回/日。先週と変わらず。

● 鍼灸

この1週間の痛みの平均VAS；78mm。  
 睡眠：痛みで目が覚めるため、あまり眠れた感じがしない。便：1日2回、2日1回、硬便・軟便など不順である。  
 脈診：右関上沈弦、左尺中弦。  
 舌診：紅舌、白膩苔。  
 食欲：「食事しているとムカついて無理矢理食べて、暫くしたら吐き気がする」とのこと。しかしながら、服薬または病気による嘔気ではなく、塩分制限(腎臓病食)→味が薄い→「味がしない」→「美味しくない」→無理矢理食べる行為によって、反射的に嘔気症状が現れているのではと考え、疏肝理気にて様子を見た。

治療部位：陰部神経、次髎、期門、足三里、右束骨・京骨の間、左太衝、右公孫、円皮鍼：足三里を使用した。



8 診目

● カルテ

レスキュー7~8回/日に増えている。朝方に多いが、日中も増えている。3時間おきに使用している。

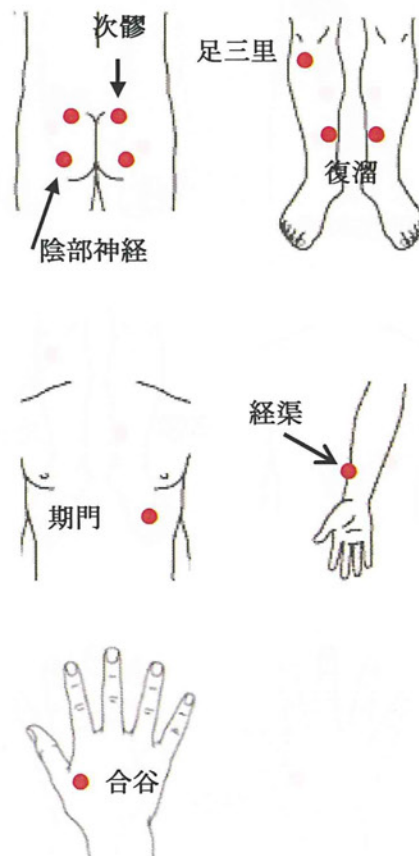
● 鍼灸

「痛みの変化はなく悪化もしていない、最近少し呼吸が苦しい時がある。今は「そうでもない」とのこと。医師・看護記録より家庭内でのストレスが溜まっている印象を受けた。

脈診：虚(細)、沈。

舌診：淡紅、黄膩苔、舌下静脈怒張。

治療部位：陰部神経、次髎、左期門、右合谷、右経渠、右足三里、復溜を使用した。

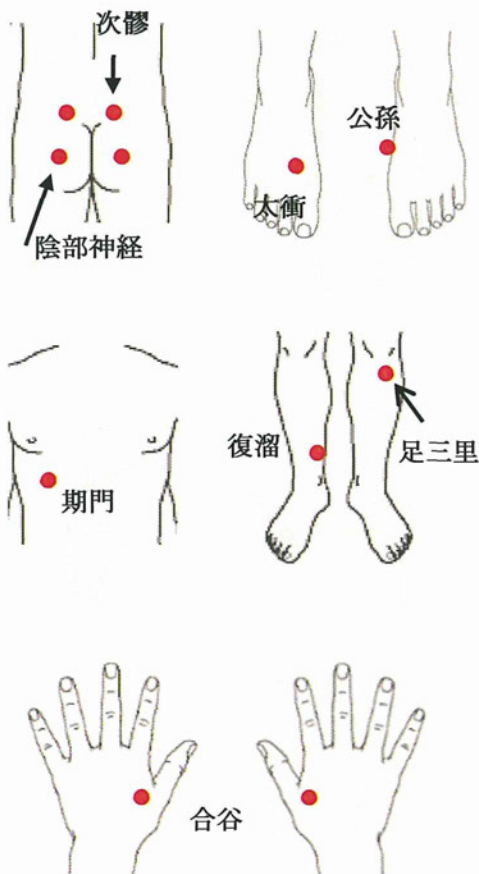




9 診目

- カルテ  
ディサービスのときは11時間もあいた。  
レスキュー6~8回/日。
- 鍼灸  
ディサービスに参加し、ゲームや多くの人と会話することが楽しく、痛みを11時間忘れていたとのこと。治療中、両手が震えていたため、確認すると「退院後からある」とのこと。  
脈診：右関上滑、左尺中微弦。  
舌診：暗淡紅、白膩苔、舌下静脈怒張。

治療部位：陰部神経、次膠、合谷、右期門、左足三里、右復溜、右太衝、左公孫を使用した。



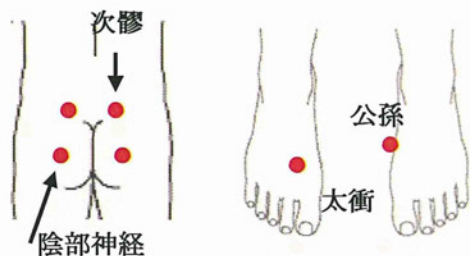
9 診+11 日目

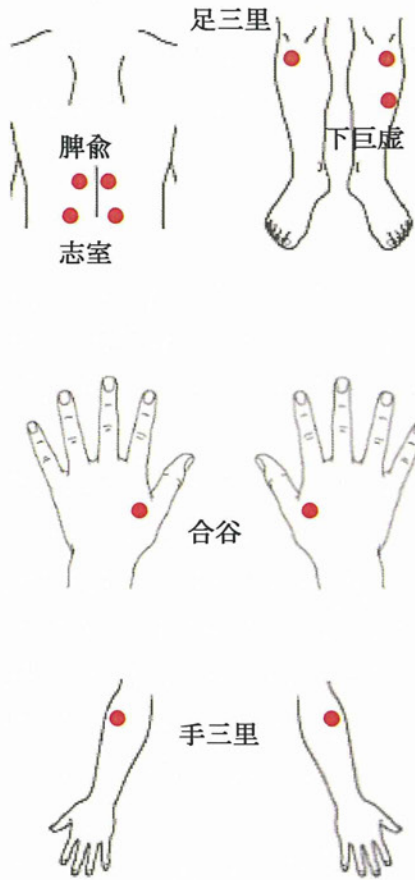
- カルテ  
神経内科受診  
痛み、嘔気について繰り返し訴えるも、原因は明らかではなく、心因性と考える。

10 診目

- カルテ  
レスキュー7~8回/日  
「オキノームないと不安です」
- 鍼灸  
「最近ガスがよく出る」。夜間、痛みで起きることもあるが、まずまず眠れており、月曜日に友人と釣りに行く約束したと話されており、比較的調子がいいと印象をうけた。  
脈診：右関上滑、左尺中微弦。  
舌診：紅舌、右舌辺厚膩苔、舌下静脈怒張。

治療部位：〈毫鍼〉陰部神経、次膠、右足三里、左下巨虚、右太衝、左公孫、合谷、手三里、脾兪、志室、〈e-Q〉左足三里に行った。  
治療後、手の震え消失する。





● 鍼灸

痛みはあまり変わらない、時々、呼吸苦があると訴える。しかし、娘から「息苦しいっていつてるけれども、こっそりタバコすったり、お酒飲んだり、家ではしんどそうでも外出する？って聞くと喜んでついてくるんです」と医師に相談があった。オキシコドン塩酸塩（徐放性の錠剤）に依存傾向が認められる。医師との相談の結果、ディサービスなど、外出を増やしてもらうため、外来には2週に1回とし、あわせて鍼灸も同様にした。

脈診：滑。

舌診：紅、厚膩苔、舌下静脈怒張。

治療部位：〈毫鍼〉陰部神経、次髎、左肺俞、右脾俞、左胃俞、志室、経渠、中府、左期門、右足三里、行间、右公孫、〈鍔鍼〉隠白、〈円皮鍼〉右風門、肺俞を使用した。

10 診+11 日後

● カルテ

オキシコドン塩酸塩水和物足りないと、娘が来院。レスキュー服薬回数 8~9 回/日か？

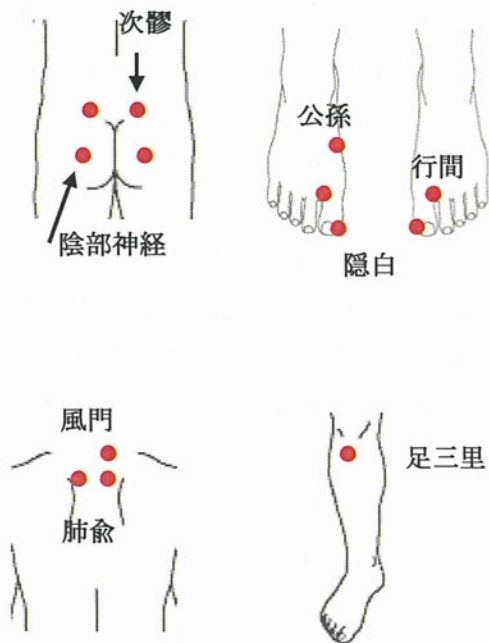
オキシコドン塩酸塩水和物にかなり依存している。近医への通院はしなくなったとのこと。

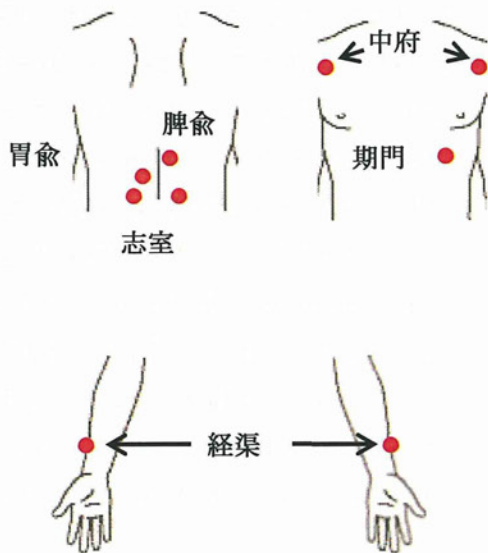
11 診目

● カルテ

「痛み変わらんね。夜はちょっと減ったかな？」

ここ数日は 5 回/日





#### 12 診目

- カルテ  
便秘時に会陰部の痛み増悪しているか。
- 鍼灸  
2週に1回のペースになったが痛みは変わらないとのこと。しかし、レスキュー服薬量は1週目8~9回であったが、外出を増やしたところ2週目5~7回と減量が認められた。本人に確認したところ、「誰かと会って話しているときは痛みを感じない」とのこと。

13~16 診目は3週に1度のペースで行っていたが、17 診目以降は4週に1度となった。鍼灸治療は気持ちいいということもあり、今後も継続治療となった。レスキューの使用回数はディサービスの日には4~5回、それ以外は7回使用していた。

#### 【転帰】

鍼灸治療 5 診目翌日で退院。以後外来に

て鍼灸治療を行っており、現在治療回数 14 回行っており、2 週に 1 回、3 週に 1 回と治療間隔をあけても、レスキューの使用回数が 6 回/日と安定してきた。今後も継続予定である。

#### 【まとめ】

本症例はオキシコドン塩酸塩（徐放性の錠剤）を使用するも一時的軽減のみで、使用回数が軽減しないため、鍼灸治療を開始した。

1 診目には著効が認められ、7 時間以上経過していても痛みを訴えることはなかったものの、2 診目より少しずつ元に戻りだした。入院後には、6~8 回に急激に回数が増量し、呼吸苦を訴えるが、患者・家族コメントから、ディサービスにいる間（7 時間近く）は痛み、呼吸苦がないとのことだった。

そこで、家にいる時間を減らしてもらうことで、使用回数は減少した。

患者自身は「変化はない」と毎回答えるが、様子を見る限りでは、呼吸苦は安定し、「痛み」に注目しなければ痛みを感じない程度まで緩和されていると考えられた。

また、途中より手のふるえに対し、治療を開始したところ、3 回でふるえは消失。これは患者自身も認めていることから、著効があったといえる。しかし、レスキュー服薬回数が 6 回から軽減しない理由には患者自身も「家庭内でのストレスがあり、イライラすることが多い」と言っており、また、裏付けるようにディサービスに行く日は 4 回と軽減していることから、根本的なストレスが解決なされない限り、これ以上の軽減は難しいのではないかと推測される。

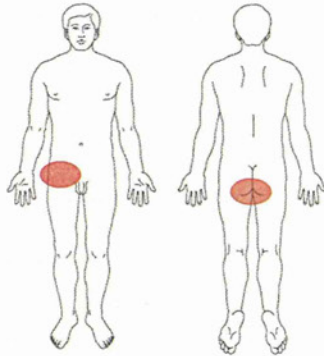
【症例】62歳、男性

【傷病名】

「大腸癌」、「骨盤内リンパ水腫」

【治療目的】「肛門痛」、「右股関節痛」

肛門に重だるい痛みがあり、鎮痛剤を使用したけど、副作用による嘔気が苦痛であったため、肛門痛および、右股関節痛緩和を目的に開始した。



【既往歴】

胆石症、高血圧症、進行性大腸癌、胃癌

【現病歴】

X-1年1月、昼に心下部の痛みを自覚。  
5月、腹部膨満感に加え、下腹部の痛みを訴え、受診した。精査の結果、大腸癌、閉塞性腸閉塞と診断された。  
6月、人工肛門造設。放射線療法（1.8Gy×25）、TS-1（120ml/body）。  
7月、大腸内視鏡検査にて脾湾曲部の1/4周堤隆起を伴う進行性の胃癌と診断された。外来受診にて経過観察していたが、鎮痛剤を使用すると副作用が強く、患者本人は痛みがあるが服薬に抵抗を示したため、外来受診の際、鍼灸併用治療を依頼された。

【所見】

問診を始めると「(肛門が)痛い！痛い！」と声をあげ、「するなら早くしてくれ！」と言われたため、十分な問診できず。

疼痛部位：右股関節の疼痛部位は鼠蹊部中央を中心に特に肝経、胃経に痛みがある。

切診：左内関緊張、右足三里～上巨虚硬結、太溪軟弱。

脈診：滑脈、腎の弦。

舌診：舌尖紅、白膩苔（左剥落）。

睡眠：22時～3時まで。（5時間強）。

便通：（パウチに）出ているが残便感がある。

【東洋医学的弁証】

腎陽虚、右足陽明経筋病、津液停滞、気滞

【方法】



図1. 治療の流れ

外来治療は1～2診目（火曜、木曜）にて行い、5日後、発熱のために入院されたため、3～5診目は病棟にて治療を行った。治療時間は、患者負担のかからないよう、10分程度の治療を行った。

### 【評価方法】

治療前後に VAS で聴取。不定期にスタッフによる印象評価、VAS 評価をカルテより抜粋。患者本人のコメントを印象評価の一つとした。

### 【使用鍼具】

毫鍼：セイリン社製、直径 0.12mm×長さ 15mm を 2mm 程度、陰部神経付近を目標に陰部神経には直径 0.25mm×90mm を 85mm 刺鍼で行った。

円皮鍼：セイリン社製、直径 0.2×長さ 0.6mm を使用。腧鍼は補法を目的に金製、瀉法を目的に銀製を使用した。

### 【評価】

痛みを VAS で評価。客観的印象評価として医師、医療スタッフのコメントをカルテより抜粋した。

### 【経過】

#### ①肛門痛

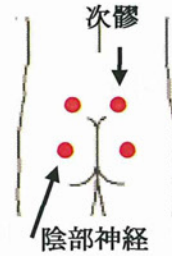
1 診-1 日目

#### ● カルテ

「薬は飲んだら 1 日吐き気と頭痛がした。肛門とお腹の痛みは金曜の半分くらいになった。その代わりに、右股関節が痛くなってきた。足の浮腫みも引いた。眠るのは 4~5 時間くらいやから、まあまあかな？」

肛門痛に対しては下記の部位を治療部位とした。

治療部位：陰部神経、次膠を使用した。



1 診目

#### ● 鍼灸

お腹から肛門にかけて圧迫された感覚がある。便通もちゃんと出ているのに、溜まった感じがある。

睡眠：3 時過ぎに起きて、それからずっと起きている。

切診：左内関緊張、右足三里硬結、左上巨虚緊張、太溪軟弱、右太衝緊張。

脈診：滑、腎弦。

舌診：舌尖紅、白膩苔（左舌辺剥落）

1 診+1 日目

#### ● カルテ

座位時に肛門痛あり。足の付け根の痛みマシになったとのこと。

トラマドール塩酸塩+アセアミノフェン内服にて症状軽減。

「チクチク痛いけど、鍼効いている気もする。足の付け根のところ痛かったけど、鍼してから、股関節から動いた感じ。肛門の痛みに聞く鍼はちょっと難しいらしいわ」（肛門痛 NRS：1、肛門痛 NRS：10）

2 診目

#### ● カルテ

トラマドール塩酸塩+アセアミノフェン 1 日 2 回使用だが、2 回目になると嘔気が出現する。

● 鍼灸

「肛門痛はちょっとマシになったようだけど、1時間くらいしたら元に戻った」

脈診：腎弦。

舌診：淡白舌、白膩苔、舌下静脈怒張。

睡眠：3~4時間程度。

便通：良好。

2診+2日目

● カルテ

普段と比べ、新しい症状も増悪していない。「鍼してもらったその日は少し楽になるけど、すぐに痛くなる」

2診+3日目

● カルテ

「ズキズキいたい」

12時半、「痛みは少しマシ、頭が痛い」

19時、ストーマの下方に圧痛あり。肛門もジリジリといたむ。

2診+4日目

● カルテ

7時、ストーマから肛門にかけてズシーンとした痛み（NRS：10以上）。鎮静剤の希望はない。

9時、ストーマ周辺の痛みだいぶ良くなった。肛門の周りはまだある。

3診目

● カルテ

突発的発熱により、入院。

7時半、肛門部痛あり。1時間おきに目が覚めた。

23時、頭痛あり。

● 鍼灸

「ドーンとした激痛や」

座位時に特に強く感じる。

肛門痛は、ズキズキした痛み+ズーンとした重だるい痛みの2種類が混合したような痛みとのこと。

切診：左胆経緊張、足陽明経の熱感あり、右章門緊張、右期門圧痛、左合谷緊張、右後溪緊張、左行間圧痛。

脈診：脾弦、肝・腎無力。

舌診：淡紅舌、白膩苔、舌尖紅。

睡眠：トイレのために1時間おきに目が覚めた。

4診目

● カルテ

7時、「鍼灸治療後一瞬よくなるんだけど、痛みかわらん」

9時半、「おしり圧迫すると痛い。何とかしてもらわな、厳しいのかな？MAX痛い」

ゲームしながら言われる。

11時、肛門痛VAS：100mm、腹部痛50mm位におさまっている。「痛み止めはまない。吐き気と関節痛、悪影響ばかりだから」

● 鍼灸

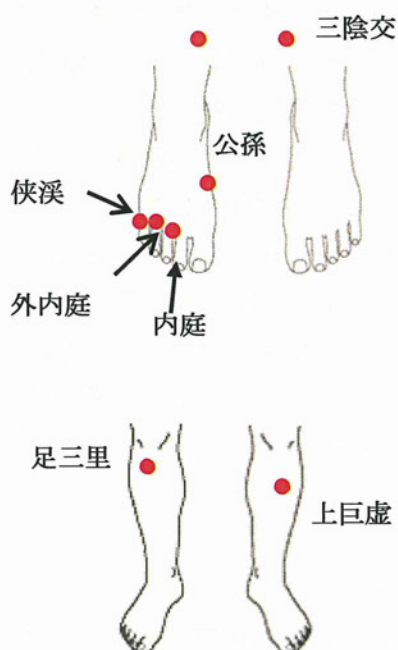
鍼治療した後、2時間ほど痛みは軽減する。現在は痛みが強く、横になってられない状態。

脈診：脾腎弦。

睡眠：相変わらず1時間おきに目が覚める気がする。昨夜の0時から痛みでトイレのため、目が覚めた。

治療部位：〈毫鍼〉太衝、右足三里、左陰陵泉、次髎、陰部神経刺鍼、〈鍚鍼〉内庭、外

内庭、俠溪、公孫、〈円皮鍼〉三陰交、右公孫を使用した。



#### 5 診目

- カルテ

8 時半、「腹は痛くないが肛門の痛みはキツイ。薬も効かない」

解熱できたこともあり、本日の 15 時半に退院予定。引き続き、外来での治療となる。

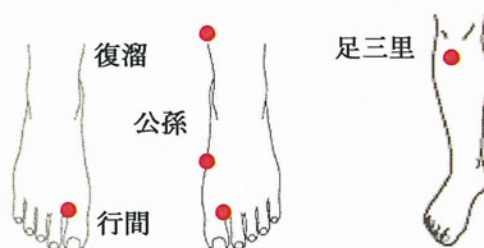
- 鍼灸

「居ても立っても居られないくらい痛くて息がしづらい時がある。鍼灸の効果は 2 時間くらいかな。圧迫感がね… (痛みではなく?) 両方」

脈診：脾・腎、弦。

舌診：淡紅舌、舌尖紅、白膩苔。

治療部位：〈毫鍼〉右足三里、左公孫、行間、左復溜、次髎、陰部神経刺鍼



肛門痛に対し、オキシドン塩酸塩水和物を使用していたが、すぐに嘔気を訴え、服薬の変更を繰り返していた。常に VAS ; 80mm の痛みがあり、酷い時は VAS ; 100mm を超えるという患者コメントであったが、スタッフからは以前痛みを訴えて救急で運ばれてきたときは会話すらままならない状態であった。その時の痛みを VAS ; 100mm 設定としても、「今はこれくらい」と VAS ; 100mm と示し、ゲームをしていた背景がある。

痛みは、座位、仰臥位で肛門を圧迫した姿勢になると、強く痛み・重だるさを感じていた。VAS ; 100mm と高値を示しているときでも、スタッフの印象評価ではゲームや散歩されていた事から、以前のような救急で運ばれたような状態ではなかった事が分かり、痛みになれたのか、痛みの基準がややふやなのか定かではない。

そのため、治療前後の VAS 比較では

1 診目 VAS ; 80mm → 治療後 VAS ; 80mm

2 診目 VAS ; 96mm → 治療後 VAS ; 91mm

3 診目 VAS ; 98mm → 治療後 VAS ; 80mm

4 診目 VAS ; 100mm → 治療後 VAS ; 87mm

5 診目 VAS ; 100mm → 治療後 VAS ; 100mm

(痛みではなく圧迫感があるということから、痛みと圧迫感を分けても「MAX 痛い」

とされてしまった)と治療前後での変化は見受けられない。

5診+6日目

● カルテ

オキシコドン塩酸塩水和物内服にて肛門痛軽減。

「座っても大丈夫。鍼は刺した時が最高に痛いんだ。鍼はやめたい。検査の針も痛い。全身の皮膚が痛みに敏感になっている」

上記コメントにより、鍼灸治療介入は中止となった。

②右股関節痛

1診目

● 鍼灸

鍼介入前、右足を引きずって歩いて入室ほどの強い痛みがあった。こちらもおキシコドン塩酸塩水和物を服薬した時に痛みはわずかに緩和されるも消失することはなかった。

鍼治療介入により VAS ; 100mm→VAS ; 72mm と僅かに軽減が認められた。治療直後「少し、歩くときにマシになった感じがする」とのことだった。リンパ腫の腫れによる可能性もあったため水質代謝を目的とした治療を行った。

切診：左内関緊張、右足三里硬結、左上巨虚硬結、太溪軟弱、右太衝緊張。胸脇苦満。

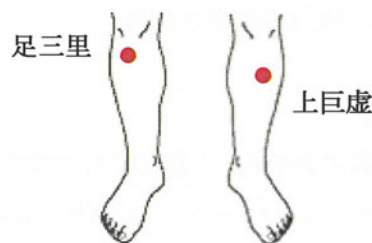
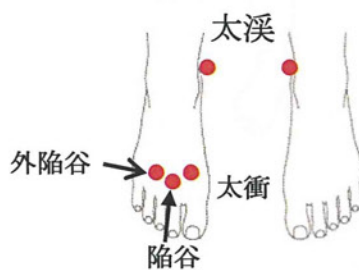
脈診：滑、左尺中弦。

舌診：舌診尖紅、白膩苔（左剥落）。

睡眠：AM3時に目が覚め、再入眠できず。

便通：出ているもののお腹に溜まっている感じがする。

治療部位：〈毫鍼〉太溪、右太衝、右足三里、左上巨虚、左内関、〈円皮鍼〉右陥谷、右外陥谷を使用した。



2診目

● 鍼灸

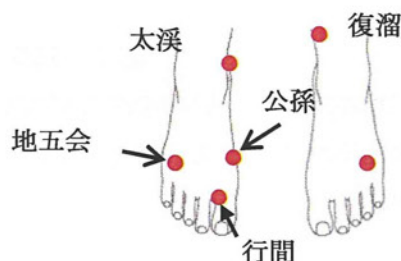
1診目の帰宅後から徐々に痛みが軽減していき、治療前はVAS ; 24mm と少し痛む程度であった。

脈診：左尺中弦。

舌診：淡白、白膩苔、舌下静脈怒張。

治療部位：〈毫鍼〉右太溪、右行間、地五会、左上巨虚、右公孫、〈円皮鍼〉左復溜、右公孫を使用した。

治療後 VAS ; 16mm を痛みは更に軽減をみせた。







### 3 診目

#### ● 鍼灸

3 診目治療開始前に確認すると股関節痛の消失が確認された。

#### 【転帰】

退院後の外来時、「座位でも大丈夫。肛門痛も軽快」というコメントが得られた。痛みに弱く、検査針（注射）や鍼の響きも苦手ということで5 診目（鍼治療全5回）で中止を申し出られたため、鍼介入は終了となった。

#### 【まとめ】

肛門痛は骨盤内リンパ水腫による圧迫痛

のため、水質代謝を改善するには1~2度の治療では改善できなかった。画像所見がないために軽減または悪化しているのかさえ状態が分からないため、患者コメントのみでは著変なしといえるが、医療スタッフのコメントからではある程度、生活可能であったと考える。リンパ水腫は個人差があり、緩和するのに、それなりの時間がかかることがいえる。

また、右股関節痛は軽度の経筋病であり、局所ではなく、末梢に2mm 刺鍼だけで緩和ができることが証明された。こちらの痛みに対しては直接投薬されたわけではないが、痛みコントロールのためにオキシドン塩酸塩水和物などを使用しても改善されておらず鍼介入直後から改善を認め、鍼の効果によるものと言える症例であった。

今回の症例では主観的評価だけでは効果がなかったと判断されたが、スタッフによる評価を組み合わせることで、患者状態が把握でき、また、股関節痛に対しては鍼治療効果が有効であったと考えられた。

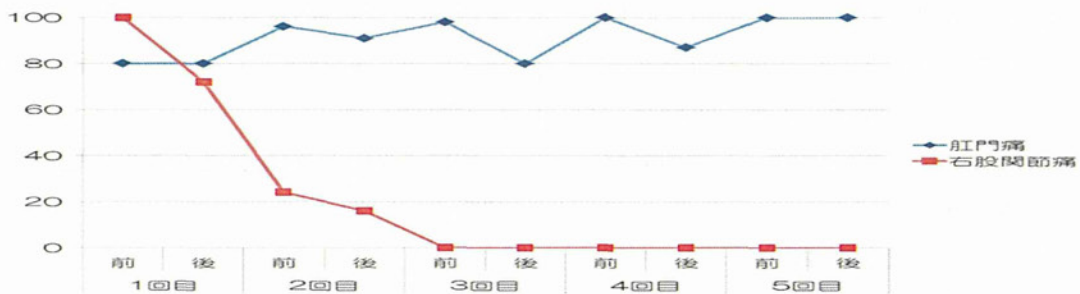


図2. 鍼灸治療介入とVASの変化

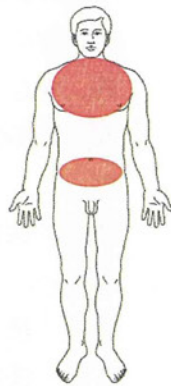
赤線は右股関節痛、一回の治療で著効が得られている。一方肛門痛は以前救急で運ばれてきた状態を100としても100とされている。おそらく、リンパ水腫による圧迫感ではないかと推測される。

【症例】53歳、男性

【傷病名】「肺癌」

【治療目的】「ムカつき (精神的な)」「便秘」「呼吸苦」

ムカつき、便秘に対しての鍼灸治療を医師から依頼があり、確認を取りに行ったところ、ムカつきは「薬の事を考えると起こる」、「医療スタッフがくるだけで吐き気がする」という精神的なものであった。また、便秘とされていたが、もともと食事が極めて少ない。



【既往歴】

腎癌、腰椎転移

【現病歴】

X-2年5月 肉眼的血尿と左側腹部の痛みを訴え、受診。超音波検査にて左腎腫瘍を確認。CTにて肺に最大12cm大の腫瘍を認めた (T3aN0M1 stageIV)。6月、経腹的左腎摘除術を施行。8月、スニチニブ 50mg/日にて経過観察。10月、転移巣縮小傾向が認められた (左上葉 21mm→14mm、左下葉 20mm→16mm)

X-1年1月、CTにて両肺の多発転移は著変が認められない病変が多いが、一部軽度増大が認められた。縦膈および肺門部にリンパ節転移と考える所見をみとめ増大。肝外側区やS5に濃染される領域が認められる。転移の除外は難しい。第12胸椎椎体に

溶骨性病変が出現しており、骨転移が疑われる。

3月、体動時の背部痛が増悪。NSAIDsを開始。ソラフェニブ 800mg/日開始 (好中球低下の為、日をおく)。疼痛の為、トラマドールを開始する。5月末、トラマドールでは効果不十分となったため、オキシコドンに変更した。状態悪化に伴い入院となった。入院中、嘔気および呼吸苦があるも薬の数が増えることを患者本人が嫌がられたため、鍼灸併用治療を依頼された。

【所見】

体動しただけでもムカつきが起こることもあるが、ほとんどが精神的なもので起きている。薬の事を考えると胸が詰まった感じで、しばらくすると「ゲフッ」と込み上げてくる。脈診：滑、舌診：淡白、白膩苔、舌下静脈怒張、右足三里～上巨虚索状硬結、右内関緊張、太溪軟弱、左三陰交深部硬結、右曲池圧痛。便通：食べていないので2日前から出ていない。

【東洋医学的弁証】

肝胃不和、気滞

【方法】

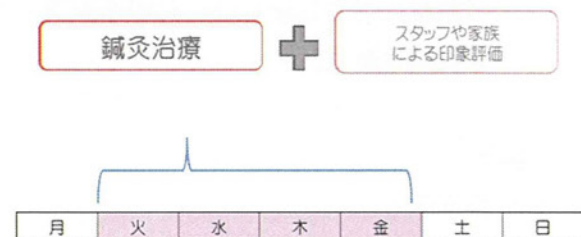


図 1.鍼灸治療の流れ

週4日(火～金曜日)にて患者の身体的負担を考慮し、10分程度の鍼治療を行った。

食事を食べられていない、病期や、薬の事で常に思い悩んでおり、気にしないでいようと努力されていることもあり、今回の症例を脾腎陽虚と考えて、治療を行った。また、経口からの食事摂取ができず脾胃の失調が強く寒湿困脾(中焦)も考える。

#### 【使用鍼具】

毫鍼：セイリン社製、直径0.12mm×長さ15mmを2mm程度、直径0.20×長さ40mmを10～15mmの刺鍼で行った。

円皮鍼：セイリン社製、直径0.2×長さ0.6mmを使用。

鍍鍼：補法を目的に金製、瀉法を目的に銀製を使用。

#### 【評価】

医師、医療スタッフ、患者コメントをカルテより抜粋し印象評価とした。

#### 【経過】

鍼灸介入前

##### ● カルテ

「薬を見るのが嫌なんや！」

経口摂取不良、嘔気あり。呼吸はモルヒネ塩酸塩水和物液にて軽減しているとのこと。

「嘔気はどうしたらいいんですか？」と質問された。

1 診目

##### ● カルテ

研究協力に同意していたものの、「モルモットやな」「こんなんでも効果があればいいんやけど」など悲観的な発言が

多くみられた。

治療後16時半、「ツボがずれていたみたい。痛くないし、これなら続けられそう」

23時、「今日、鍼してもらった。明日もしてくれるんや！」と笑顔で話された。

##### ● 鍼灸

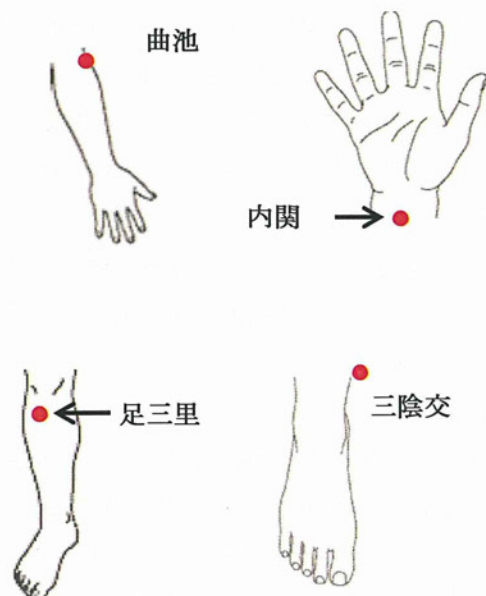
「薬の事を考えると胸が詰まった感じで、暫くするとゲフッと込み上げてくる。でも、常にムカムカした感じはある」と悪化因子に精神的なものがあった。

便通：経口摂取ができていないため、出ない。

脈診：滑。

舌診：淡白、白膩苔、舌下静脈怒張。

治療部位：〈毫鍼〉右内関、右曲池、右足三里、左三陰交、〈円皮鍼〉右内関、右曲池、右足三里を使用した。



## 2 診目

### ● カルテ

14時、「鍼は効くかどうかわからんけど、してもらおう事にしました。前は、薬の話をするとムカつきありましたけど、薬の話できます。息もえらくないです」午前中、ツボを押しながら、プリン1個、カフェオレ少し摂取できる。23時、「吐き気には効果あるみたいだけど、呼吸の苦しいのはオプソの方が効くみたいやな」

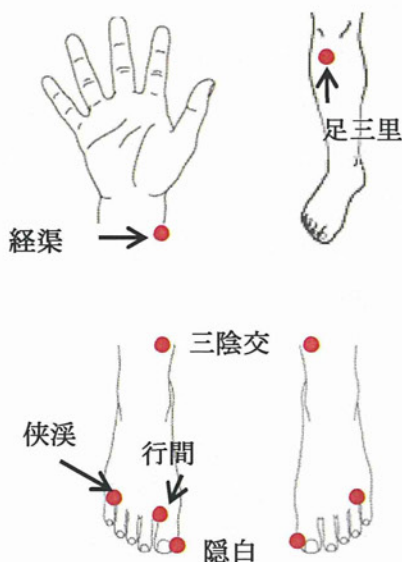
### ● 鍼灸

1診目治療直後に変化は認められなかったが、「呼吸の苦しいのは変わらないけど、昨日より嘔気はマシになった」とコメントがあった。

脈診：左関上・左尺中弦。

舌診：暗淡白、白苔、舌下静脈怒張少々。

治療部位：〈毫鍼〉右経渠、侠溪、右行間、右足三里、三陰交、〈鍍鍼〉隠白、〈円皮鍼〉右経渠、右足三里、右行間を使用した。



## 3 診目

### ● カルテ

15時半、「鍼したらなんか違う感じするんや。モルモットやさかいに」

23時半、「おしっこ濃いでしょ？しんどいことないです」

### ● 鍼灸

本日、軽度ムカつきが2度のみ。

「鍼した後、循環よくなるのか鼻がでて、痰（黄色）もでる（自力排痰可能になった）」とのこと。

切診：右足三里硬結、右陥谷軟弱、右外陥谷軟弱、右地五会軟弱、左衝陽軟弱陥凹、右合谷圧痛。

脈診：滑、細。

舌診：淡白、黄膩苔、舌下静脈怒張。

治療部位：〈毫鍼〉太溪、右陥谷、右外陥谷、右地五会、左衝陽、右合谷、〈円皮鍼〉右内関、右足三里、左衝陽を使用した。

